

【2025年最新】LiPro評価基準（行政書士の通信講座）

LiProでは行政書士の通信講座ランキング作成において、評価基準を作成いたしました。



当サイトは広告収入を元に運営されています。ユーザーの皆様に公正、かつ、正確な情報をお届けするために、広告にあたる商品・サービスには「PR」や「スポンサードリンク」などの記載をすることを遵守しています。「選び方」で紹介している情報は、必ずしも個々の商品の安全性・有効性を示しているわけではありません。商品を選ぶときの参考情報としてご利用ください。

調査概要

調査方法	調査した行政書士の通信講座 を確認
調査実施期間	2025年1月23日～1月24日

1. 評価基準の設定の流れ

評価基準の設定の流れは以下の通りです。

1. 各行政書士の通信講座の公式サイトを確認
2. 評価基準の項目について調査
3. 評価基準をもとに評価をする

1-1. 各行政書士の通信講座の公式サイトを確認

調査する行政書士の通信講座の公式サイトにて、サービスの内容等を確認しました。

1-2. 評価基準の項目について調査

評価基準（「受講費用の安さとコストパフォーマンス」「講義・講師」「教材の見やすさと充実度」「サポート内容」「合格実績」）の5項目に関して、行政書士の通信講座の公式サイトの情報を調査しました。

1-3. 評価基準をもとに評価をする

調査した情報を確認して、評価基準をもとに評価をしました。

2. 評価基準

評価基準（「受講費用の安さとコストパフォーマンス」「講義・講師」「教材の見やすさと充実度」「サポート内容」「合格実績」）の5項目において、1～5までの評価基準を設定いたしました。

項目	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5
受講費用の安さとコストパフォーマンス	50万円以上	30万円以内	20万円以内	10万円以内	5万円以内
講義・講師	説明が寛容で難解、またはわかりにくい、受講生が理解に苦しむ場面が多い。質問への対応もなく、フォローアップも期待できない。講義時間が非常に不足しており、試験合格に必要な内容がカバーされていない。講義は視聴方法が限定的で、受講生の学習ペースに合わせた柔軟性がない。	講義内容が複雑で理解に時間がかかり、説明が十分でない部分も多い。講義時間数は重要な項目であっても十分に時間がかからず、内容の深さが不足している。学習者が追加の参考書や講義を必要とするレベルである。講義は視聴方法が限られており、スケジュールの調整が難しい。	基本的な説明は分かりやすいが、複雑な内容に関しては理解に時間がかかる場合もある。講義時間数は、必要最低限の内容がカバーされており、試験対策としては成り立っているが、少し時間が欲しいと感じられる箇所もある。1講義は、30分以上であり集中して受講する必要がある。	講師の説明も比較的わかりやすく、質問に対しても適切なフォローがある。必要な内容はほぼ網羅されており、試験に適切な時間が確保されている。1講義は30分程度で集中して受講する必要がある。	講師の説明が具体的で、難しい概念もわかりやすい。試験に必要な知識を十分にカバーするだけの講義時間が設けられ、内容が充実している。1講義が15分程度でスキマ時間でも学びやすい。

教材の見やすさと充実度	文字が多すぎて理解に時間がかかり、図表やシナリオがほとんどありません。試験範囲を十分にカバーしておらず、学習内容がかなり限定されている。	図表やイラストが少なく、複雑な内容の説明が足りない。基本的な内容が不足している箇所があり、徹底的に不足している。過去問や演習問題も少なく、追加の参考資料が必要である。	レイアウトがややシンプルで、図表が少ないため複雑な内容を理解するために工夫が必要である。基本的な内容はカバーされているが、深掘りは不足している。動画講義、Webテキスト、紙テキストのうち1つは用意されており、学習方法が限られる。	基本的なレイアウトが整っており、図表やイラストが適切に配置されている。試験範囲を網羅し、過去問や基本的な演習問題もある。動画講義、Webテキスト、紙テキストのうち2つは用意されており、学習方法が限られる。	レイアウトやフォント、図表がよく整理されており、視覚的にわかりやすい。試験範囲を完全に網羅しており、基本から応用までの内容がバランスよく含まれている。動画講義、Webテキスト、紙テキストの3つが用意されており、隙間時間でも学びやすくなっている。
サポート内容	質問ができない、または対応が遅く、回答も検討で理解ができない。進捗管理や学習計画サポートが一切なく、自己管理が必須。模擬試験や直前対策が一切なく、個別のフォローや脆弱性克服のサポートもなく、受講生が自力で対策する必要がある。	有料でしか質問ができない。学習進捗管理や確認テストはなく、学習計画も自己管理が必要である。模擬試験や直前対策がないか、内容が非常に限定的である。個別サポートや弱点がないため、試験直前のフォローが期待できない。	無料で質問は可能だが回数制限があり、回数を超えた質問はできない。進捗管理ツールや確認テストはあるが、サポートは受講生の自主依存している部分が多い。模擬試験や直前講座があるが、個別サポートや特定分野の補強は期待できない。	無料でできる質問の回数は制限されているが、有料で追加で質問も可能である。基本的な進捗管理ツールがあり、自分で学習状況を管理しやすい。模擬試験や直前対策も用意されており、最後の総仕上げに備えている。個別対応は一部である。	質問は無制限で可能であり、理解に必要な追加の説明も提供される。進捗管理や学習計画の進め方支援があり、学習を計画的に進められるサポート体制が整っている。試験直前対策や模擬試験の実施、苦手分野を克服するための個別サポートが充実している。

合格実績	合格率が非常に低く、合格者がほとんど出ていない、または確認できない。講座としての効果が見られないレベルである。合格実績に関する情報が一切なく、公開データや受講生の体験談も記載されていない。	合格率が低めで、受講生の多くが合格に到達していない。業界の中でも合格実績が劣り、合格者数も少ない。合格実績についての記載はないが、合格者の声は少しだけ掲載されている。	受講生の合格率は平均的で、可もなく不可もない実績。一定の合格者が出ているが、特筆すべき高さではない。合格者の声は記載されているが、合格率は掲載されていない。	受講生の合格率が高く、信頼できる実績が示されている。公開された合格実績に一定の具体性があり、信頼できるデータとして確認できる。受講生の口コミや評判も良く、一定の合格者数がある。	受講生の合格率が非常に高く、講座の効果が統計的に証明されている。公開されている合格実績に具体的なデータ(年度ごとの合格者数や割合)があり、信頼性が高い。講座のホームページや受講生の体験談などが掲載されている。
------	--	---	--	--	--

2-1. 受講費用の安さとコストパフォーマンス

行政書士の通信講座ごとに受講費用の安さとコストパフォーマンスを5段階で評価しました。

2-2. 講義・講師

行政書士の通信講座によってさまざまな講義が実施され、講師が在籍しています。講師の説明が具体的で、難しい概念もわかりやすいかどうか、試験に必要な知識を十分にカバーするだけの講義時間が設けられ、内容が充実しているかどうか、1講義がスキマ時間でも学びやすいかどうかを評価の基準としました。

2-3. 教材の見やすさと充実度

行政書士の通信講座によって、教材の見やすさと充実度が異なります。レイアウトやフォント、図表がよく整理されており、視覚的にわかりやすいかどうか、試験範囲を完全に網羅しており、基本から応用までの内容がバランスよく含まれているかどうか、動画講義、Webテキスト、紙テキストの3つが用意されているかどうかを評価の基準としました。

2-4. サポート内容

行政書士の通信講座によって、受けられるサポート内容が異なります。質問は無制限で可能であり、理解に必要な追加の説明も提供されるかどうか、進捗管理や学習計画の進め方支援があり、学習を計画的に進められるサポート体制が整っているかどうか、試験直前対策や模擬試験の実施、苦手分野を克服するための個別サポートが充実しているかどうかを評価の基準としました。

2-5. 合格実績

行政書士の通信講座によって、合格実績を公開している場合としていない場合があります。受講生の合格率が非常に高く、講座の効果が統計的に証明されているかどうか、公開されている合格実績に具体的なデータ(年度ごとの合格者数や割合)があり、信頼性が高いかどうか、講座のホームページや受講生の体験談などが掲載されているかどうかを評価の基準としました。

3. 調査した行政書士の通信講座

今回調査したのは下記の行政書士の通信講座です。

行政書士の通信講座	公式サイト
スタディング	公式サイト
アガルート	公式サイト
フォーサイト	公式サイト
クレアール	公式サイト
ユーキャン	公式サイト
TAC	公式サイト
資格スクエア	公式サイト
伊藤塾	公式サイト
LEC	公式サイト
東京法経学院	公式サイト
資格の大原	公式サイト
ヒューマンアカデミー	公式サイト
行書塾	公式サイト